

● **社会福祉法人db VERSION:10.102**

当プログラムは、マイクロソフト社のサポート対応終了に伴い、Windows XP・Vista・7 搭載機へのインストールは不可となっています。

◆ 導入・更新

➤ 前年度からの更新

- ①当年度と前年度で決算期間が異なる場合に表示していた、「当年度と前年度の各月の期間が違います。処理を継続しますか？」のメッセージを省略するように対応しました。

◆ 登録・入力

- [F7 定型登録] [Ins 定型仕訳] の仕訳グループを選択するコンボボックスで、仕訳グループの検索を行えるように改良しました。

◆ その他の改良、修正を行いました。

※詳細は、次ページからの“**社会福祉法人db (VERSION:10.102) の変更点**”を参照してください。

❗ **注意**

- 他のICSシステムとマスターのやり取りを行われる場合は、他のICSシステム側も当改正対応プログラムのインストールを行い、バージョンを統一してください。

# 社会福祉法人 d b (VERSION:10.102) の変更点

## 前期末支払資金残高 (当期予算) の補正予算についての改良

### I. 導入・更新

#### 1) 翌期更新

- ①「前期末支払資金残高 (当期予算)」に補正予算を入力した場合、変更後予算額を次年度の「前期末支払資金残高 (前期予算)」へ繰り越すようにしました。

#### 2) 前年度からの更新

- ①更新後マスターの「前期末支払資金残高 (当期予算)」の実額入力が ON の場合、前年度マスターから再集計を行わないようにしました。

※前期末支払資金残高(当期予算) = {前期予算合計 - 前期予備費} + 前期末支払資金残高(前期予算)

例) 当年度へ初回更新時 7,000 = {1,400 - 400} + 6,000

その後 予備費流用 50 と収入予算 100 の計上漏れが判明

当年度へ再更新時

当年度実額 OFF のまま再更新: 7,100 = {1,450 - 350} + 6,000

当年度実額 ON にして再更新: 7,000 = {1,400 - 400} + 6,000

→ 差額 100 を補正予算へ入力 (※自動では入りません)

	前年度[修正]	当年度	当年度 (再更新)
予備費	1,000		
予備費使用額	600[650]		
前期予備費	500	400	350
前期末支払資金残高(前期予算)	4,000	6,000	6,000
前期末支払資金残高(当期予算)	6,000	7,000	7,100
当期予算(補正・流用含む)	1,400[1,450]		
前期予算	2,500	1,400	1,450

実額 OFF 実額 ON 補正

※実務的には「前期末支払資金残高(当期予算)」の計上根拠は、前年度の予算又は実績となります。いずれの場合も前年度決算の確定前に仮の予算を計上し、確定後にその金額へ置き換えることとなります。

現状のプログラムでは当該項目が実額か自動かに関係なく、前年度の修正データが無条件に次年度へ繰り越されてしまうため、更新時期と決算確定時期のタイムラグにより生じた差額を表現できません。

差額を補正予算の入力で賄う場合に当年度予算データと前年度予算データを整合させる必要性から、実額 ON の場合、前年度からの更新処理を行っても金額が書き替わらないように変更しました。

- ※実額 OFF の場合は従来通り前年度データを繰り越します。  
差額を補正予算として入力しないケースを考慮しています。

## Ⅱ. 登録・入力

### 1) 資金科目・予算・予備費関係登録

- ① 「前期末支払資金残高（当期予算）」の補正予算額の入力に対応しました。
- ・ [F9 予備費] ダイアログに「補正入力 (F8) 」のボタンを設けました。（赤枠）
  - ・ 「前期末支払資金残高」を「前期末支払資金残高（実績）」に変更しました。（緑枠）

前期末支払資金残高(実績)	0
前期末支払資金残高(前期予算)	2,000,000
前期末支払資金残高(当期予算)	2,000,000
前期末支払資金残高(来期予算)	0

補正入力(F8)

実額で入力する

- ・ ダイアログ内に表示する「前期末支払資金残高（当期予算）」は、補正予算額を除いた金額を表示します。

補正予算額込みの変更後予算額は「補正入力 (F8) 」のダイアログで確認できます。

- ※ 「前期末支払資金残高（当期予算）」を実額で入力している場合は、実額 + 補正予算額が変更後予算額となります。

前期末支払資金残高		
予算額	2,000,000	
変更後予算額	3,000,000	
補正予算額		
対象次	実施日	金額
1次	01.01	1,000,000
2次	02.01	0

変更(F9)      キャンセル(ESC)

- ・ 補正予算額の「対象次」は [F8 実施日] で登録した実施日を引用します。
  - ・ 部門から全体への予算額転送においては、「転送する期」の「当期」にチェックを付けた場合に転送の対象となります。
  - ・ 決算確定マスターの場合、補正入力ダイアログでは確認のみ行えます。
- ② [F9 予備費] ダイアログの「実額で入力する」のチェックを切り替える際に表示するメッセージを変更しました。
- チェックの切り替えで、どの金額がどのように影響するかを明確にするため、文言を変更しました。
- ・ チェック ON 時

資金科目・予算・予備費関係登録

⚠ 前期末支払資金残高（当期予算）を実額入力に切り替えます。  
翌期更新時は実額を繰り越しますが、前年度からの更新時は前年度から再集計しません。  
処理を継続しますか？

はい(Y)      いいえ(N)

- ・ チェック OFF 時

資金科目・予算・予備費関係登録

⚠ 前期末支払資金残高（当期予算）の実額入力を解除します。  
前期のデータ（科目予算・予備費・前期末支払資金残高）をもとに再集計を行います。  
処理を継続しますか？

はい(Y)      いいえ(N)

③予算残高一覧表に「前期支払資金残高」の出力枠を設けました。

・前期、当期、来期の各予算金額を枠内に移動し、欄外にあった当該科目の表示はカットしました。

勘定科目	前期予算		補正予算 1次		補正予算 2次		補正予算 3次		補正予算 4次		予備費流用額	科目予算流用額合計	当期予算 (変更後)
	当期予算(当初)	末期予算	補正予算 5次	補正予算 9次	補正予算 6次	補正予算 10次	補正予算 7次	補正予算 11次	補正予算 8次	補正予算 12次			
紹介報酬収入 (0401)	1,000,000	01.01	1,000,000	02.01									2,000,000
前期末支払資金残高	2,000,000	01.01	1,000,000	02.01									3,000,000
前期予備費	0				前期末支払資金残高(実績)		0						
当期予備費	0												
末期予備費	0												
予備費流用合計額	0												
借入限度額	0												

### Ⅲ. 決算

#### 1) 決算書

①「三列（当初予算／補正予算／当期予算）」形式の資金収支予算書において、「前期末支払資金残高（当期予算）」の補正予算額の出力に対応しました。

※“流用額”欄を表示する場合も同様の対応を行っています。

勘定科目		当初予算額	補正予算額	当年度予算	備考
+	事業活動収入計(1)	1,000,000	1,000,000	2,000,000	
-	事業活動支出計(2)	0	0	0	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	1,000,000	1,000,000	2,000,000	
+	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
-	施設整備等支出計(5)	0	0	0	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0	
+	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
-	その他の活動支出計(8)	0	0	0	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	0	0	0	
	予備費支出(10)	0	0	0	
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	1,000,000	1,000,000	2,000,000	
	前期末支払資金残高(12)	2,000,000	1,000,000	3,000,000	
	当期末支払資金残高(11)+(12)	3,000,000	2,000,000	5,000,000	

※前期末支払資金残高の予算金額は当初予算と前年度予算の比較帳票で一致しますが、当年度予算と前年度予算の比較帳票では一致しません。

後者の帳票で一致させたい場合は、補正予算入力欄を使用せず、補正込みの金額が「前期末支払資金残高(当期予算)」となるよう処理を行ってください。

# その他改良

## I. 導入・更新

### 1) 前年度からの更新

- ① 当年度と前年度で決算期間が異なる場合に表示していた、「当年度と前年度の各月の期間が違っています。処理を継続しますか？」のメッセージを省略するように対応しました。

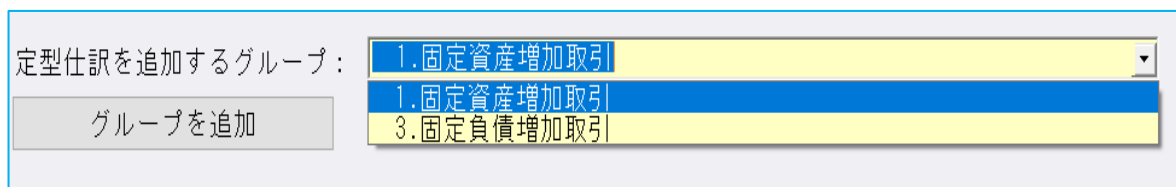
## II. 登録・入力

### 1) 仕訳入力

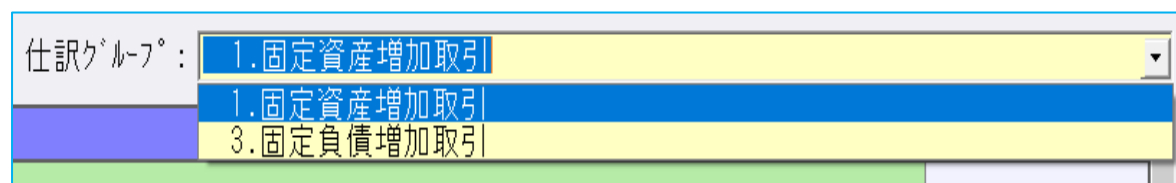
- ① [F7 定型登録] [Ins 定型仕訳] の仕訳グループを選択するコンボボックスで、仕訳グループの検索を行えるように改良しました。
- ・ 仕訳グループコンボボックスに検索したい仕訳グループの文字列又は番号を直接入力して Enter を押すと検索することができます。

例) “増加”で検索した場合

- [F7 定型登録]



- [Ins 定型仕訳]



## III. 出力

### 1) 消費税額試算表・集計表・課税売上割合

- ① [F6 詳細設定] の「枝番表示を行う」のチェックボックスを廃止し、消費税額試算表タブで部門の切り替えと同じように変更できるように改良しました。

【通常時】



【部門を押下した場合】

・部門の表示の下に枝番が移動します。

既定(税込)	税 抜	
部 門	出力パターン1	詳細
[0999] 総合計	部門戻り 部門送り	
枝 番	上半期の課税売上高(税込)が1,000万円を超えています。 免税事業者の場合、来期申告や届出等にご注意ください。 *給与等支払額合計の判定は行っていません。	

※課税売上高の「上半期 1000 万円超え」「年換算 5 億円超え」に関するメッセージは、上記の位置に固定しています。

② [F6 詳細設定] に科目設定から合計名称を連動できる機能を追加しました。

出力選択	科目名称
<input type="checkbox"/> 消費税額試算表のみ出力する	施介護報酬収益
<input type="checkbox"/> 課税区分別集計表のみ出力する	老事務費収益1
<input type="checkbox"/> 枝番未入力残高を出力する	サービス収益
<input checked="" type="checkbox"/> 科目名称を科目設定業務の合計名称より出力する	小 計

## 修正

### I. 登録・入力

#### 1) 仕訳入力

①伝票入力で「1 仕訳ごとに部門を入力」のチェックを外した状態で、1 仕訳ごとに部門別々の部門を登録している定型伝票を転記する場合、自動で「1 仕訳ごとに部門を入力」にチェックが付き、仕訳ごとに別々の部門をセットするように修正しました。

#### 2) 残高問い合わせ

①比較残高/枝番

・前期の発生が 0 で当期に発生がある枝番が印刷・プレビューで出力されなかったのを修正しました。

#### 3) 資金科目・予算・予備費関係登録

①決算確定マスターにおいて、予算の金額を変更できてしまう箇所があったのを修正しました。

② [F11 詳細入力] で予備費流用や補正予算額を入力後に科目予算流用ダイアログを開けた場合、変更後予算額がそれらを加味しない金額を表示していたのを修正しました。

③ [F9 予備費] [F11 詳細入力] ダイアログのタイトル名称に「当期\_」と表示していたのを、その部分のみカットしました。

## II. 出力

---

### 1) 消費税額試算表・集計表・課税売上割合

- ①一括税抜きマスターで、1920×1080の解像度、マルチウィンドウ有効（重ねて表示）の設定にしている場合、消費税額試算表の画面で「既定・税込・税抜」などの切り替えボタンが、期間指定のバーにかかってしまっていたのを修正しました。
- ②下記条件を全て満たしている場合に消費税額試算表を開くと、「様式《5%合計》の作成中に障害が発生しました」とエラーを表示していたのを修正しました。
  - (1)科目枝番の振替仕訳のみの月が存在している。
  - (2)規定外の税率の仕訳を入力している。
  - (3) [F6 詳細設定] の「枝番表示を行う」と「課税取引期間計より消費税額を算出する（総額）」にチェックが付いている。
- ③枝番の消費税区分を登録しているマスターで、消費税額試算表を“前年対比タイプ”に切り替えて、税処理方式を既定以外に切り替えた場合に不正終了していたのを修正しました。

## III. 決算

---

### 1) 決算書

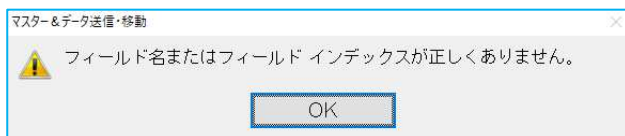
- ① [F6 項目登録] の事業活動計算書タブを表示している状態で、タスクバーをクリックすると強制終了していたのを修正しました。

## IV. 通信・移動

---

### 1) 会計事務所へマスター&データ送信・移動

- ① [F8 履歴表示] を押下時に、“フィールド名またはフィールドインデックスが正しくありません。”とエラー表示して、送信履歴が表示されなくなっていたのを修正しました。  
※前回バージョンのプログラムで一度も送信していなかった場合に、それ以前の送信履歴が表示されませんでした。



以上